

■ 河合塾テキスト「地理総合、地理探究（共通テスト対応）（2025 完成シリーズ）」演習問題 解説 ■

【第27講】

解答番号	正解	解説	重要度
1	①	①：正文。日本の活火山は、西日本火山帯と東日本火山帯に分布するが、四国には両火山帯とも通っていない。②：誤文。台風は温帯低気圧にかわる前に、北海道に到達することもある。③：誤文。海底の隆起や沈降によって引き起こされるのは津波である。高潮は、台風や強い低気圧の接近の際に気圧が下がることや、海水が強風で吹き寄せられることによって、海面が通常時より高くなる現象で、沿岸の低地などに浸水被害をもたらすことがある。④：誤文。やませは、夏季にオホーツク海気団から吹き出す冷涼湿潤な北東風で、東北地方の太平洋側などで稲作に悪影響を及ぼす冷害を生じさせることがある。	★★
2	④	④：正答。力：誤り。北日本で降水量が 900 mm未満の観測地点のうち、平年比 80 %未満の地点は 1 か所のみである。キ：誤り。全国で降水量が 1500 mm以上の観測地点は、必ずしも平年比 120 %以上とはなっていない。	★
3	③	③：正答。魚介類：B。1970 年代に石油危機による燃料費の高騰などから遠洋漁業が、1980 年代後半以降に乱獲などから沖合漁業が衰退し、漁業生産量が減少したため、輸入量が増加した。穀類：A。米の自給はほぼ達成されているが、小麦やトウモロコシなどの生産量は少なく、1970 年代以降は輸入に依存している。野菜：C。近年、輸入量が増加しているが、鮮度を要するものが多いため、国内での生産量が比較的多い。	★★★
4	③	③：正答。出版・印刷業：イ。市場立地型工業のため、東京都をはじめ、大阪府、愛知県、福岡県など大都市を含む都府県での割合が高い。電気機械器具製造業：ア。労働力立地型工業のため、人口の多い太平洋ベルトの都道府県での割合が高い。窯業・土石製品製造業：ウ。原料立地型工業のため、セメント工業では石灰石産地の埼玉県（秩父市など）など、陶磁器産業では愛知県（瀬戸市など）、岐阜県（多治見市など）などの都道府県での割合が高い。	★★★
5	③	③：誤り。一般に、人口を維持するためには、合計特殊出生率（1 人の女性が生涯に何人の子どもを産むかを示す数値）は、2.1 前後の数値が必要であるとされている。④：正しい。大都市圏へ若年層が流出し、高齢者の割合が高くなれば、出生率は低下し死亡率は上昇するため、人口の自然増加率は低下する。	★
6	②	②：正答。老人人口率は、地方圏で高く大都市圏で低いが、近年、大都市圏郊外のニュータウンなどでは、急速に高齢化が進展してきている。1 人世帯の割合は、大都市圏中心部で高い。地価は高いものの単身者居住向けの住宅であれば住宅費は抑えられるため、単身の学生や若年層の居住割合が高い。また、地方圏でもひとり暮らしの高齢者がみられ、比較的高くなる。サ：A。大都市圏中心部では、1 人世帯の割合は高く、バブル経済崩壊（1991 年）後、地価が下落したため、その割合は増加している。また、若年層を中心とした人口流入（人口の都心回帰）もみられるため、老人人口率はほとんど変化していない。シ：C。地方圏では、老人人口率は高く、25 年間で増加してきた。また、1 人世帯の割合も比較的高い。ス：B。大都市圏郊外では、かつては生産年齢層とその子どもからなる世帯（核家族）の割合が高かったため、1 人世帯の割合は低く、老人人口率も低かったが、近年は、急速に高齢化が進展してきている。	★★★

7	①	<p>①：正答。図中の地価最高地点が都心部にあたると考えて解く。居住期間が5年未満の人口割合：サ。就学や就職のために新たに転入してきた学生や単身者は、大学などの学校や職場に近く利便性の高い都心部やその周辺に居住する傾向が強い。地価は高いが単身者居住向けの住宅であれば住宅費は抑えられる。核家族世帯割合：シ。核家族は、夫婦と未婚の子ども、父親または母親と未婚の子ども、夫婦のみの世帯をさすが、良好な住環境を求めたり、ある程度床面積が広い住宅を必要としたりするため、地価が比較的安い郊外の主要道路沿いなどに居住する傾向が強い。第1次産業就業者世帯割合：ス。地価が安い都心から最も離れた地域に居住する傾向が強い。</p>	★★★
8	①	<p>①：正答。図の主な鉄道網より、地区タは都心部の CBD（中心業務地区）、地区チは郊外のベッドタウンにあたると考えられる。E：自動車。交通渋滞や駐車場の確保などの面から、郊外から都心部への通勤手段としての利用は少なく、郊外での移動手段として利用される。F：鉄道。郊外から都心部への通勤手段としての利用が多い。昼夜間人口指数は、夜間人口100人に対する昼間人口を示し、地区タには企業が集積し職場が多いため大きな値となり、地区チは常住人口が多い住宅地区のため小さな値となる。</p>	★★
9	②	<p>②：正答。E：タ。観光やレジャーで来訪する人々が多いということから、別荘地が存在する市区町村であることがわかるため、居住者のいない住宅の割合が高く、居住者のいない住宅のうち「別荘などの住宅」の割合が高い。F：ツ。高齢化や過疎化によって人口減少が進んでいるということから、地方圏などの市区町村であることがわかるため、「空き家（人が長期間住んでいない住宅や取り壊すことになっている住宅）」の割合が高い。G：チ。転出者や転入者の多い大都市圏ということから、学生や若年単身者向けの賃貸住宅や家族向けの中古住宅など、短期間の空き住宅が多く存在する市区町村であることがわかるため、「賃貸用・売却用の住宅」の割合が高い。</p>	★★
10	③	<p>③：正答。ブラジル国籍の全国居住者の推移：J。出入国管理法が改正された1990年以降、日系人とその家族の居住者が増加した。製造業での非正規雇用の労働力が多かったため、2008年のリーマンショック以降は帰国する人々も増加した。ベトナム国籍の全国居住者の推移：K。近年は、技能実習生や留学生の在留資格で滞在する居住者が増加している。ブラジル国籍の都道府県別の割合：N。愛知県をはじめ、静岡県、三重県、群馬県などで、自動車や自動車部品関連の製造業に従事する人々が多い。ベトナム国籍の都道府県別の割合：M。留学生は大都市圏に多いが、技能実習生はさまざまな産業分野にわたるため、大都市圏だけではなく地方圏にも分散して居住している。</p>	★★★